

古河歴史見聞録

『南総里見八犬伝』の読み方

馬琴の「謎かけ」への挑戦

むせるような暑さ、瓦の強烈な照り返しの中、高層の楼上で相まみえる両雄。息もつかせぬ死闘の行方はいかに…。

五百数十年前の6月、古河城である有名な決闘が行われました。今回は、その様子が描かれた『南総里見八犬伝』にふれてみます。

古典文学史上最長の物語

『八犬伝』といえば、ご存じのとおり、「仁義礼智忠信孝悌」の珠を持つ八犬士が活躍する壮大な伝奇小説で、江戸時代を代表する戯作者・曲亭馬琴の作。全98巻・106冊、完結までに28年間を要した、まさに馬琴畢生の大作で、日本古典文学史上最長の作品といわれています。



▲『南総里見八犬伝』曲亭馬琴作、柳川重信ほか画

名場面・古河城芳流閣

そんな『八犬伝』の中でも、最も人気のある場面の一つが「古河城芳流閣の決闘」。犬塚信乃と犬飼現八の両犬士が戦う描写は『八犬伝』を代表する名文と謳われています。

ちなみにこの決闘、あくまで小説の中の虚構であり芳流閣も想像上の楼閣ですが、実在した古河城御三階櫓をモデルにしたといわれています。

メディアミックスの優等生

かつて馬琴は、作品の長大さゆえに全文を読み通すのが困難なため「読まれざる文豪」と呼ばれて



▲古河城御三階櫓(明治3年武藤松庵撮影)と渡良瀬川堤防上に建てられた古河城本丸跡碑

した。にもかかわらず、誰しも『八犬伝』のことは知っている。これは『八犬伝』が、特性の異なる複数メディアの組み合わせで相乗効果を狙う「メディアミックス」の好例だからではないでしょうか。

『八犬伝』は、刊行当初から登場人物や名場面が錦絵に描かれただけでなく、刊行中に早くも歌舞伎として舞台化されています。

また、『八犬伝』ほどその影響力を現代にまで及ぼしている作品は他に類を見ません。翻案小説、漫画、アニメ、映画、ドラマ、舞台演劇、はたまたゲームに至るまで、『八犬伝』に想を得たメディアは広がっています。

馬琴の隠微を読み解く

通読困難な『八犬伝』を面白く読む方法の一つに、馬琴が仕掛けた「謎」を読み解くということがあります。馬琴はこれを「隠微」と呼び、文外に深意があるとしています。例えばなぜ8人なのか？序文で『榎氏字考』という書物



▲三代豊国(歌川国貞)画「犬塚信乃 犬飼現八」

安政4(1857)年に江戸中村座で上演された「若樹梅里見八総」の役者絵。『八犬伝』は刊行中から歌舞伎で舞台化、その人気に拍車がかかった

に掲載されていた8人を参考にすると、一応の種明かしをしています。その他にも「8」という数字が作中のあちこちに仕掛けられています。よほど「8」という数字に強くこだわったのでしょうか、その深意については「八字文殊曼荼羅の文殊菩薩をイメージ」「犬士を北斗七星とその輔星になぞらえている」などさまざまな議論がなされています。

古河文学館学芸員 秋澤正之

【児童/読み物】

きっと、物語はよりそう

日本児童文学者協会 編

お父さんが亡くなって5年。真司はお母さんと2人で暮らしてきた。そんな真司の前に現れた幸太郎さん。今日、真司は幸太郎さんと2人だけで溪流づりに行く…。人と人とのふれあいをやさしく描く作品集。全6編を収録。

出版社…偕成社

【一般書/小説】

MISSING

村上龍 著

この女優に付いていってはいけない。混乱と不安の世界に迷い込んだ小説家が母の声に導かれ彷徨い続け…。

5年ぶりの長編小説。村上龍メールマガジン『JMM』にて連載し、『新潮』に掲載された作品を単行本化。

出版社…新潮社

図書館の本棚から



三和図書館

【一般書/古生物学】

古生物のしたたかな生き方

土屋健 著

無気力だって立派な生存戦略！ 没落したら復活すればいい！ あえてサイズダウンする！

知れば知るほど感動する、古生物たちの究極サバイバル術を紹介する。

出版社…幻冬舎

【絵本】

おくりもの

豊福まきこ 作

自分のハリがきらいなハリネズミくん。あるとき、そのハリでマフラーを編んでみることにしました。それは「おくりもの」となって森をめぐっていき…。

自分の中の「きらい」を「好き」に変える、知恵と優しさあふれる絵本。

出版社…BL出版

昭和36年ごろ



提供：三和資料館

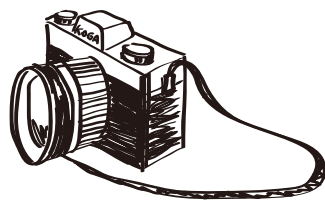
昭和36年ごろの県道結城野田線の舗装工事の様子です。

諸川小学校前では、大勢の人がシャベルなどで舗装工事前の道路の整地作業を行いました。

【募集】このコーナーに掲載する昔の総和地区の写真を探しています。お持ちの人は☎シティブロモーション課(Tel.92-3111)までご連絡ください。

古河今昔物語

Time Travel Photograph



令和2年

